

「水痘の流行発生注意報」と「手足口病の流行発生警報」の発令について

鹿屋保健所管内の感染症発生動向調査において、水痘の発生報告が流行発生注意報の基準値を超えたため「水痘の流行発生注意報」が、手足口病の発生報告が流行発生警報の基準を超えたため「手足口病の流行発生警報」が発令されました。

下記を参考に予防につとめましょう。

また、該当するような症状が見られた場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

水痘を予防しましょう！

1 水痘とは

2週間程度（10日～21日）の潜伏期の後、発熱・かゆみを伴う全身性の発疹・だるさ（倦怠感）が見られる疾患です。発疹はかゆみを伴い、紅疹・丘疹を経て水疱状となり、最後はかさぶた状になります。経過は一般的に軽症ですが、2次性の細菌感染・肺炎・無菌性髄膜炎・脳炎などを合併することがあります。

2 原因となる病原体及び感染経路は

- ・水痘帯状疱疹ウイルスの初感染によって起こります。
- ・感染経路は、患者の咳や唾を吸い込むことでの飛沫感染や、発疹や水疱に触ったりすることでの接触感染があり、発疹の出る2日前から水疱が出ている間あるいは痂皮（かさぶた）になるまでまわりの人に感染します。

3 流行時期は

年間を通して患者発生が見られますが、特に毎年12月から5月に多く、7月～10月に減少します。

4 予防するには

- ・水痘の予防法には、水痘ワクチンを接種することです（1歳以上の人を対象で任意接種となり有料です）
- ・水痘の患者さんと接触した場合には、72時間以内に水痘ワクチンを接種することで発症の防止・症状の軽症化が期待できます。
- ・流行時には、流水と石けんによる手洗い・うがいを励行しましょう。
- ・感染者との密接な接触を避けましょう。

該当するような症状が見られた場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

手足口病を予防しましょう！

1 手足口病とは

手足口病は、乳幼児・小児によく見られる疾患で、手のひら・足の裏・口の中の発疹と水疱を特徴とします。一般的には、発熱で始まる軽い病気で、ほとんどの人が、1週間から10日程度で自然に治ります。合併症も、ほとんどありませんが、まれに髄膜炎等の中枢神経症状が発生し、入院が必要となります。

2 原因となる病原体及び感染経路は

- ・手足口病は、いくつかのウイルスが原因で起きます。最も一般的なのはコクサッキーウイルスA16ですが、この他のエンテロウイルス71なども原因となります。
- ・感染経路は、感染者の鼻やのどからの分泌物や便に排出されるウイルスが、経口・飛沫・接触などの経路により人から人に感染します。

3 流行期間は

年間を通して患者発生が見られますが、全国的には夏を中心に流行します。

4 予防するには

- ・手足口病には、有効なワクチンがありませんので、外から帰った後、食事の前、トイレの後などに流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- ・症状がなくなった後も、2～4週間は便にウイルスが排泄されるので、手洗いを徹底し、幼稚園・保育園・学校や家庭でもタオルの共用は避けましょう。
- ・感染者との密接な接触を避けましょう。

該当するような症状が見られた場合は、早めに医療機関を受診しましょう。